

2020 年度本決算説明会における主な質疑応答の要旨

<日時>2021 年 4 月 27 日 16:00～17:00

Q. 堀切社長 CEO が会長 CEO になり、中野専務が社長 COO になることにより、どのように経営体制の強化に繋がるのか？

A・(堀切社長 CEO) 私が CEO として全体統括することは変わらない。

- ・私は中長期の経営戦略等に注力し、中野は事業戦略に基づいた日々の業務執行全般を担う、という役割分担をする。
- ・この変化が激しいときに、変化への対応をより素早く行える体制にする。

Q. 次期中期経営計画は 2022 年度からということだが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今後の経営戦略が従来と変わるところと変わらないところを教えて欲しい。

A・新型コロナウイルス感染症が終息するにはまだ時間がかかるだろう。2021 年度は次期中期経営計画を策定するための準備期間とし、市場環境の変化による影響を見定める。

- ・海外における成長の継続、国内における収益性の改善を目指すことは、次期中期経営計画でも変わらない。

Q. 海外でキッコーマンブランドの浸透はどの程度進んだのか？

A・2020 年度は、海外の各地域で家庭用が大きく伸びた。

- ・アメリカでは、家庭用の伸びのうち、間口の拡大と奥行き拡大による貢献が半分ずつくらいあったと考えている。欧州では間口の拡大の方が、奥行き拡大よりも貢献したと考えている。
- ・アメリカではマーケットシェアも拡大した。
- ・家庭用の伸びに対しては反動もなく、実際に家庭の中で使われていると考えている。今後も家庭用の需要を広げ、また家庭での使用頻度を落とさないようにマーケティングを行う。

Q. 海外では、足元で業務用はどの程度回復しているか。

A・3 月は業務用の売上が回復してきた。アメリカではワクチン接種が進んでおり、レストランの営業規制の緩和がさらに進む期待から、出荷が進んでいる。

Q. 欧州の食料品製造販売事業の営業利益率が 2021 年度予想でさらに上がる理由は？

A・2020 年度に低くなった業務用商品の製造効率が改善するとみているため。

Q. 2021年度の原料相場前提は？国内と海外で原材料費の影響額の差が大きい理由は？
業績予想以上に原料費負担が重くなるリスクはあるか？その場合はどのように吸収する
のか？業績予想に値上げは織り込んでいるか？

A・業績予想に値上げは織り込んでいない。

- ・国内に比べ、海外の方が原料手当てが進んでいる。
- ・2021年度の原料相場は緩やかに下落することを想定しているが、そうでない場合は特に国内の原料費負担はさらに重くなるリスクがある。その場合、さらなるコストダウン等、様々な手段を考えなければいけない。

Q. 自己株式取得の背景は？

A・この数年実施していなかったこと、設備投資が一段落していること、業績が好調でフリーキャッシュフローが増えていること、現預金があることなどが理由である。

- ・資本政策の面もあるが、株主還元を考え、自己株式の取得を決めた。

Q. IFRS への移行により、会計上どのような影響があるか。

A・影響として大きいものは、のれんの償却、退職給付会計、また株式の売却益が特別利益に入れられなくなることだ。

- ・詳細は分かり次第速やかに開示する。

以 上